

# 被災建物解体時のアスベスト飛散防止

## レベル3建材や断熱材に注意



豊口 敏之氏に聞く

全国アスベスト適正処理協議会 調査分析部会  
副部長 (環境管理センター技術本部長)

東日本大震災で発生した災害廃棄物の処理に際しては、放射性物質による汚染への対応に注目が集まっているが、アスベストの飛散リスクにも対応していくことも重要な課題だ。特に津波被害を受けた建物の解体が本格化するが、建材にアスベストが含まれているものも多く存在すると予想され、適切な対応が求められる。全国アスベスト適正処理協議会調査分析部会副部長に、今後解体を進めていく上での留意点を聞いた。

3の建材も含めてどうか、外壁内装の一部にアスベストを含む建材が使用されている場合もある。解体時にアスベストが飛散する恐れがあるため、解体前にこの部分を調査し、適切な調査をしていく必要がある。被災した建物数が多いため、公定法による詳細な分析を行うと時間も費用もかかってくる。迅速な調査を進めるには、例えば建材を採取し偏光顕微鏡でアスベストの有無を確認したり、簡易測定を行うことも活用している。調査も多々見られる。こうした対象についても、できる限り事前に調査を行うことで建物の現状を把握



偏光顕微鏡による確認など、簡易な方法でアスベストの有無を調査する手法も検討する必要がある

含有建材の分別困難なケースも

「がれき処理におけるアスベスト対策の現状と課題は。」「現在、被災地ではがれきの処理が進んできているが、がれきに混入しているアスベスト含有廃棄物の対策については、明確なルールは依然できておらず、現場での分別作業は大気中のアスベスト濃度測定などを実施することで、作業者の影響や周辺への飛散がないかというのを確認し作業を進めている状況だ。周辺環境のモニタリングなどにより監視するような仕組みもできているが、実質的には含まれているアスベストを分別し

たりということほあまり行われていない。」「津波でミンチ状になっただけでアスベスト含有建材を分別することは非常に困難であり、飛散状況を管理しながら注意を促すようなことしかできないかもしれないが、今後は津波による被害を受けた建物とそのまわりの津波被害で建物の一部が

「吹き付け材が多く使用されているのか。」「当初は吹き付け材などの飛散性の高い建材を重点的に調査・確認していたが、予想以上にレベル3の建材が使われている建物が多く確認された。」「ただ、被災した建物も多く、実際は被災した建物内部に立入り、建材の調査を進められ

るが、レベル3の建材については調査せず解体が進められる可能性も高い。そうした場合、他の建材と混合され、そのままリサイクルに回るといったことになる。解体前の所有者や施工業者へのアスベスト使用の有無の確認だけは、記録や記憶が曖昧なケースもある。また、面積が狭く調査しにくい対象にならない建物も多く、情報収集が難しい面もある。吹き付け材以外にも、ボイラーや煙突の断熱材などにアスベストが使用されている例も多い。また、現地で建物調査をした際に、ひる石の吹き付け材が内装に使われている事例も多く見られる。こうした対象についても、できる限り事前に調査を行って建物の現状を把握

で注意が必要だ。」「津波や地震によって発生した飛散だけでなく、これからの解体作業で発生する廃棄物などの廃棄物の注意も必要である。」「まずどこかのようなのが使われているのか、ということもきちんと把握する必要がある。実際に解体を行う際には、被災地で通常の解体工事の現場とは状況が異なるので、アスベストの飛散防止についても工夫が必要となるだろう。」「また、こうした震災時だからこそ、今後の調査・分析の方法などを考えていく必要がある。現場でできる簡易な測定方法なども取り入れて、工程法と併せ総合的な測定ができるようにすべきだ。」「また、国がその方針や調査のあり方について何らかの方針を示す必要もあるのではないだろうか。さらに、今回の震災を教訓にして、他地域でもアスベストの使用について調査を進め、ハザードマップのようなものを作成すべきだと考えている。」「全国アスベスト適正処理協議会の活動は、」

「当協議会では過去の経験なども踏まえ、『東日本大震災におけるアスベストの適正処理』の提言を取りまとめているところだ。このポイントには、『建物・構築物におけるアスベトリスクの見える化』、『震災時における建物のアスベスト被災の対応』、『建物におけるアスベスト被害の未然防止と適正処理の徹底』、『建築所有者に対して、アスベストを除去し安全な空間を作るための支援制度の確立』となっている。適正処理の促進に向け、この提言を広く普及啓発していく考えだ」

## 簡易測定など視野に 調査方法の検討必要

ル3の建材が使われている建物も多く確認された。今後、被災した建物の解体に当たっては、こうした建物内部に立入り、建材の調査を進められ

「現場では被災した建物からアスベストが飛散しているケースは多くないようだが、今後、建物の解体が進むにつれ、適切な管理を怠るとアスベストが飛散する恐れもあるの

しておくことが必要だ。」「現状では被災した建物からアスベストが飛散しているケースは多くないようだが、今後、建物の解体が進むにつれ、適切な管理を怠るとアスベストが飛散する恐れもあるの

「現場では被災した建物からアスベストが飛散しているケースは多くないようだが、今後、建物の解体が進むにつれ、適切な管理を怠るとアスベストが飛散する恐れもあるの



今後は被害を受けたまま残っている建物の解体時に、アスベストの飛散をどう防ごうかが焦点の一つになる



がれきに混入しているアスベスト含有廃棄物の対策については、依然として明確なルールが決まっていない



建物の解体前に、アスベストの有無について適切な調査を行う必要がある